

# 水源かん養地対策に 関する提言書

2019年12月

総務建設常任委員会

## 1 はじめに

東員町の水道水源は、いなべ市、桑名市に存在するかん養地からの水源でまかっています。私たちの住む地域も近いうちに必ず起こる東南海地震に備えて水道水源の備えは十分であるのか、また限りある水資源の保全に重要であるかん養地対策の取り組みがいまだに実効性がない現状を踏まえ、総務建設常任委員会は、被災地における水道水源への影響と、水道水源かん養地対策をテーマに進めてきました。

令和元年7月23日には、平成28年に発生した熊本地震において甚大な被害を受け、3年経過後も地震の爪痕が残る熊本市へ被災地における水道水源への影響と熊本市の水源かん養地対策についての考え方と取り組み、水源地帯を抱える上流域自治体との関係に関する取り組みについて調査研究を行いました。

## 2 調査・研究の概要

### 被災地における水道水源への影響

地震後、水前寺成趣園（熊本市）の湧水や、周辺住民が生活用水や農業用水として活用していた水源が枯れる事例が報告されました。

その原因として、地震によって地下水の進路が変わったこと等が指摘されています。熊本県は、上水道の8割以上を地下水によってまかっています。（熊本市は100%地下水）その影響が懸念されましたが、熊本県の多くの自治体の水源は東員町のような浅井戸ではなく、深い地層の地下水を使用する深井戸であり、地下水の流れは変化しておらず、枯渇することはありませんでした。

### 水量の確保について

現在は豊富にある良質の地下水も、環境の変化に影響されやすく、回復には時間を要します。また限りある資源であることを念頭に、一般家庭においては節水を目指して市民全体で取り組んでいます。その最たるものとして、地下水保全条例を制定しており、その中で年間の使用料が3万トンを超える事業者には、氏名を公表するなど厳しい対応をしていました。

令和6年に向けて使用水量の目標設定を行い、住民と一緒に市全体で水資源の保全と確保に取り組んでいました。

地下水の保全では、「水田を活用するもの」と「森を活用したもの」がありました。前者では、水田から地下に浸透した水は、ろ過され地下水となり、水田の果たす役割は重要です。農業者に協力（助成金あり）を願い、休耕田（転作田を含む）に水を張ってもらうことで、かん養の保全に取り組まれていました。

また後者では、水源かん養林整備事業として予算化されており、近隣自治体と涵養林の整備に関する協定を結ぶなど、広域的な取り組みがされてきました。

### 3 提言（提案等）

- ① 東員町も水道水源を100%地下水に依存する町であり、安定したかん養地にする必要があります。東員町と熊本市では規模が異なりますが、地下水の水位が低下している状況を皆が認識をすることがまず第一歩だと考えます。水の大切さについて町民に対して講座開設を要望します。
- ② 町民に対して問題意識の提供と共有が優先課題であり、又、かん養地対策は企業も含めた協議の場を持つことが必要と考えます。地下水保全条例などの制定も視野に入れながら、町民全体で限りある地下水源を守っていく方策を試行することを要望します。
- ③ 熊本市は白川中流域の水田や畑地等で多くかん養がされ、近隣の市町村で「地下水を共有していくための協定」を結び、水源の保護を行っています。東員町においても、かん養地保全に向けて広域での協議の場を持つことが必要であると考えます。また、休耕田（転作田等）を活用した対策を講じることは有効と考えます。
- ④ 今後は一水道事業者任せにせず、水資源については東員町全体で対応していくことが望ましいと考えます。例として熊本市では、住宅地での雨水浸透柵を設置に対する補助をしています。住民との取り組みの一環として有効と考えますので、「雨水浸透柵」の導入を提案します。
- ⑤ 四日市市に対して地下水の問題を改めて検証していく必要があると考えます。かん養地は、生態系保全、景観機能、自然環境保護、治水機能があり長年の取水量によってはこれらの事柄に影響があると思われます。（地盤沈下を含む）

以上、5点について提言、要望します。